

# 記入例

※様式は富山県介護支援専門員協会ホームページからダウンロードしてください。

受講番号		氏名	
------	--	----	--

## ③スーパービジョン記録 ★3回分の記入をお願いいたします

時系列	① R3年6月5日	② R3年6月20日	③ R3年7月25日
具体的な 場面・ 相談の内 容や課題	長男に、現状の報告について電話を行い、相談を受ける。病気の悪化により慣れ親しんだ病院への受診もできなくなっている。主治医交代により不安感が増し一層悪化に拍車をかけるのではないかと心配である。	退院後のモニタリングのため自宅を訪問する。今後も独居生活が続く不安から、利用者に「あなたに私の気持ちちはわからない」と言われ傷付いた。予後や緊急時に対する不安や恐怖がある。	本人やサービス事業所から緊急の連絡が頻繁に入る。本ケースにとられる時間や仕事量が過大な様子である。
スーパー ビジョン の内容	利用者のメンタル面の安定のため、地域連携室を通して主治医と連携を図りやすい訪問診療医の選定を提案する。	事業所内で常に相談できるような場づくりを提案し、サービス担当者会議の早期開催を勧める。	初めての看取り期の連携で精一杯の様子である。利用者・家族の気持ちの揺れに寄り添いたいと考えている。業務状況を確認し、新規担当をしばらく控えることにする。
スーパービジ ョンの機能	教育・支持・管理・その他	教育・支持・管理・その他	教育・支持・管理・その他
相談後 の所感	痛みの程度や身体状況の変化から、医療的な支援体制の強化を図る時期にあることを自覚したとの言葉が聞かれた。	責任感が強く、一人で抱え込む傾向がある。思いを聞くことだけで相談者の不安感を拭えたかどうか自信がない。	精神的・肉体的な負担を軽減するために、事業所として一時的に配慮する。
相談者の 到達度	現況だけでなく先々を見据えた取り組みが意識できるようになった。	精神的に負荷がかかっている状態を改善するために、内外に相談できる相手を作る方向へ進んだ。	医療との連携が以前より円滑にできるようになった様子だが、他業務への影響が出ている。
今後の 方向性	主治医と連携を深めるために訪問看護サービス導入についても時宜を見て助言する。	事業所全体で協力することが大切なので、事例を共有する。	他スタッフに負担が偏らないよう、1か月後に再度状況を聞き取り検討する。

- ・教育：知識や技術を提供してスーパーバイザーを教育するという意味での機能
- ・支持：自己覚知を促したりバーンアウトを防止するなど、スーパーバイザーを支える機能
- ・管理：業務量を調整するなどしてスーパーバイザーが力を発揮できるよう環境を整える機能